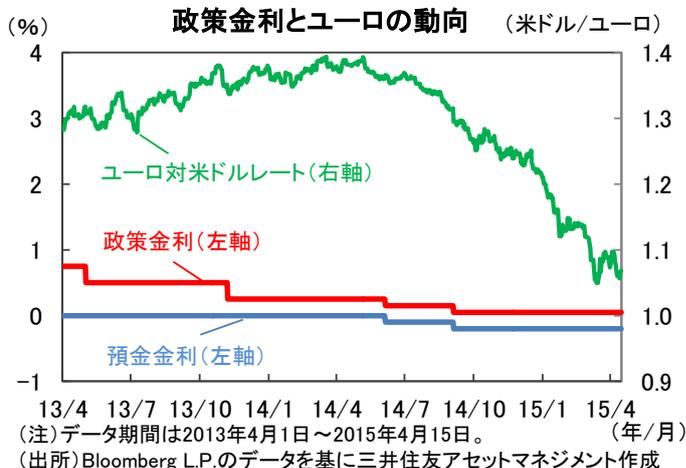


今日のトピック

ECBは現行の量的緩和を継続

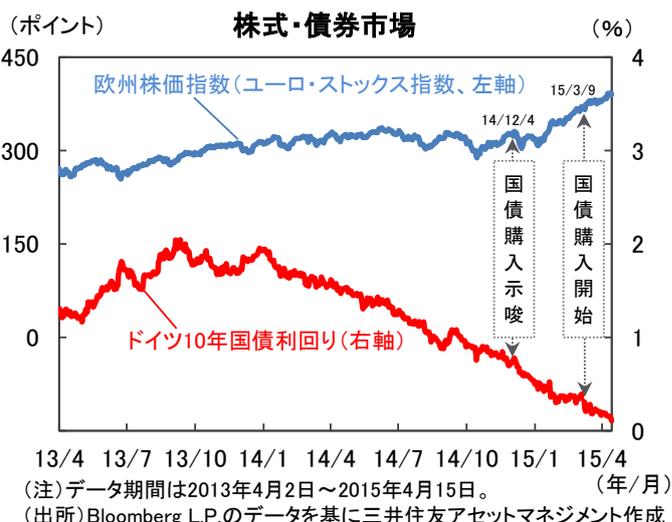
ポイント1 月600億ユーロの購入を維持 政策金利も据え置き

- 欧州中央銀行(ECB)は15日、政策金利、預金金利を、それぞれ0.05%、マイナス0.20%に据え置くことを決定しました。また、3月から開始した月600億ユーロの国債などの購入策を2016年9月まで継続する方針を維持しました。
- 市場では緩和策の継続が好感され、ドイツの10年国債利回りは低下し過去最低を更新、欧州株式は上昇、ユーロは対米ドルで一時下落しました。



ポイント2 金融緩和の有効性に言及 緩和縮小観測を打ち消す狙いも

- 声明文では、現行の措置によりここ数カ月で、民間の資金調達コストの低下や借入条件緩和などに大きな改善があったとし、金融緩和策の有効性に言及しました。さらに、2%近くの物価目標の達成に向けて現行政策の完全履行に注力する方針を示しました。
- 市場には、ECBの緩和策の効果が期待以上で緩和縮小観測も一部でとりざたされていたことから、総裁は現行政策の継続を強調することで、そうした思惑を打ち消す狙いがあったと見られます。



今後の展開 物価目標達成に向けて、資産購入を2016年9月まで継続へ

- 4月10日時点での国債購入は617億ユーロで、購入開始直前の3月6日時点と比較すると、その他の資産を含めて、約756億ユーロの資産が増加しました。このペースで進むと、2016年9月までに総額1兆ユーロ強の資産拡大が見込まれます。強力な金融緩和により、ユーロ圏経済は回復色が強まっており、物価も原油安の影響が一巡する今年後半から徐々に目標に近づく動きとなることが期待されます。
- 為替市場では、米ドルに対するユーロ安が見込まれます。円に対しては、日銀の強力な金融緩和などから、方向感が出にくいと見られます。
- 債券市場では、金融緩和が長期化し、国債利回りは低位で推移するという見方が強まっています。
- 株式市場では、金融緩和によるユーロ安で企業業績見通しが上向いていることから、総じて堅調な展開が続くと予想されます。

ここも
チェック!

2015年04月15日 IMFの世界経済見通し(2015年4月) 世界経済の緩やかな成長見通しを維持
2015年03月06日 ユーロ圏の金融政策(2015年3月) 3月9日から国債などの購入を開始

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。